

## 時刻表

大阪南港コスモフェリー  
第2ターミナル

月～金	17:55発
土	17:55発
日	17:00発

志布志港  
(鹿児島)

翌朝	8:55着
翌朝	9:40着
翌朝	8:55着



志布志市  
Shibushi-city

志布志港  
(鹿児島)

月～木	17:55発
金	17:55発
土	18:30発
日	17:00発

大阪南港コスモフェリー  
第2ターミナル

翌朝	7:40着
翌朝	7:50着
翌朝	8:50着
翌朝	7:40着

## さんふらわあ ライナー 時刻表

さんふらわあライナーは、志布志⇄鹿児島市内を結ぶ  
高速シャトルバスです。※ご乗船のお客様は運賃無料

	志布志港	鹿児島中央駅	天文館	南埠頭高速船 ターミナル
月～土	9:10発	11:03発	11:08発	11:13発
	16:33発	14:40発	14:35発	14:30発
日	10:10発	12:03発	12:08発	12:13発
	15:48発	13:55発	13:50発	13:45発

さんふらわあライナーは、志布志⇄鹿児島市内を結ぶ高速シャトルバスです。※ご乗船のお客様は運賃無料

明治維新150年を迎える鹿児島県だが、志布志も幕末期と少なからず関わりはある。薩摩藩の財政改革を行った調所広郷は、志布志領の地頭で弘化3年に亡くなるまでその職を兼務していた。志布志の中心部は、明治の廃仏毀釈によって取り壊された所が多いようだが、それでも寺院が多く、大慈寺は由緒あるところ(室町期の創建で京都の妙心寺の末寺にあたる)。江戸期には100名もの僧侶が学問に励んでいた。

かつてこの町は、志布志千軒まちと呼ばれ、海商らが勢いづけていたことから古い屋敷が今も残る。「平山氏庭園」や「天水氏庭園」などはその一例で、この二つは国指定文化財になっている。市では歴史ある町を知ってもらおうと、「麓庭園と湧水郡」「大慈寺とその門前」「千軒町」「宝満寺跡と武家屋敷」の4つの散策コースを組んで歴史散歩を薦めているようだ。

ちなみに志布志で忘れてならないのは、鰻の養殖とお茶の生産。前者は日本一の生産量を誇るほどで、大隅産の鰻は身が厚く、脂が乗って身が柔らかいと評判。全国の鰻屋から名素材として求められている。後者の日本茶も栽培は盛ん。鹿児島自体が茶どころといわれているが、志布志にも茶畑は点在。ここで摘んだお茶は、爽やかな香りとコクのある旨み特徴とされる。

## 鬼塚製茶

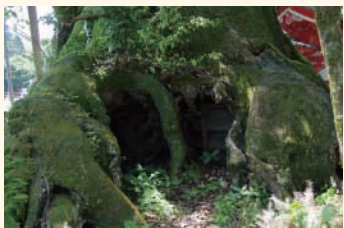
「平山氏庭園」のすぐそばにある鹿児島茶の専門店。自家の茶畑で摘んだ日本茶を販売している。有機栽培茶「夏井」や特上深蒸し茶「あおい」「上煎茶」「さかの」が代表的商品。写真はくき茶。

## 鬼塚製茶

鹿児島県志布志市志布志町帖4373  
☎0120-72-0074  
🕒9:00～17:00  
📅日祝日

## 平山氏庭園

天水氏庭園、福山氏庭園と並ぶ志布志麓三庭園の一つ。江戸初期に造られた寺院庭園で、荒々しい岩盤と緑がダイナミックな調和を見せている。作庭者は石峯時代の住職と伝えられているようだ。



## 安楽山宮神社の大楠

安楽の山宮神社鳥居横に立つ大楠は、国指定の天然記念物で、幹周囲が17.1m、高さ23.6m、根回り32.3mの大木。樹齢は800～1000年といわれている。県内には国の天然記念物に指定されたものが三つあり、この古木はその一つ。根元に空洞を持つことから、住民からは「トトロの木」と呼ばれて親しまれている。

## 安楽山宮神社

鹿児島県志布志市志布志町安楽1750  
👁拝観自由



フェリーさんふらわあの着く

# 志布志って、 こんなまち

「さんふらわあさつま」が発着する志布志は、古くから港湾都市として栄えたところ。島津領だった時代は、日向唯一の浦町として京阪はもとより、南西諸島との廻船で潤った。密貿易も盛んに行われたようでも町に密貿易の屋敷跡が見られる。現在、志布志は人口3万人ほどの市で、その名称から日本一志の多い町としてPRしている。現に市内のある所を記すと、志布志市志布志町志布志という住所になり、いくつも「志」という字を書かなければならない。この志布志なる地名は、一つの伝説からつけられた。天智天皇遷幸の折りに、天皇に布を献上した妻女の優しい心に倣って召使いの女性も布を献上した。そのことに天智天皇はいたく感激され、「上下より布を志す誠」これは上下の志布志であると言われた。そのことから町の名がついたという。

## レストラン

太平洋航路に行く「さつま」と「きりしま」は、8階にレストランがある。券売機で食券を買って入るスタイルで、料理はバイキング。和洋中が揃ったメニューで当然ながら食べ放題。料理以外にスイーツも充実している。ちなみに料金は夕食が大人1,540円、小学生1,030円、4歳～未就学児650円、65歳以上1,230円。これにプラスすれば、お酒(生ビール500円、日本酒410円～など)も飲める。



## 売店



エントランスホール入ってすぐに位置するのが、この船の売店(船内ショップ)。ドリンクやお酒、つまみ、お菓子などが揃っているのをそれを買って部屋で飲むのもいい。売店前には「さんふらわあ」グッズや鹿児島や関西の土産物も販売。旅先で買い忘れた人は、ここどうぞ。

船内で  
買える

さんふらわあ

GOODS



1 さんふらわあの旅(10枚入クッキー)680円 2 さんふらわあアポロキャップ2,000円 3 さんふらわあ×クシタニ コラボキーホルダー1,080円 4 さんふらわあオリジナルステッカー150円 5 さんふらわあ自由帳180円 6 さんふらわあシャープペンシル(デルガード)500円 7 さんふらわあ球体ストラップ260円

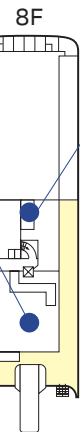
1

## 「フェリーさんふらわあ」 トリビア

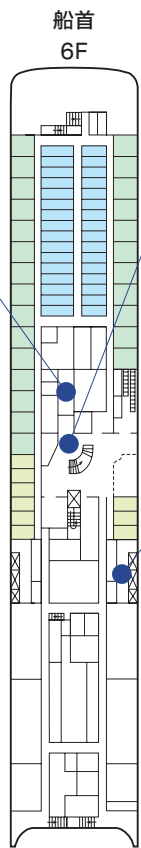
写真の煙突部分は「さつま」「きりしま」とも8階デッキにある。「さんふらわあ」煙突のオレンジ色部分をファンネルマークといい、この色は商船三井系の証明。ちなみに他社は紺で白のラインがあったり、アルファベットが描かれたりしている。各船会社ごとに独自のラインと色があり、そこでどの船かを 見分けることができるのだ。



展望デッキ



船首  
6F



船尾

4

## ドラの音で出航!!

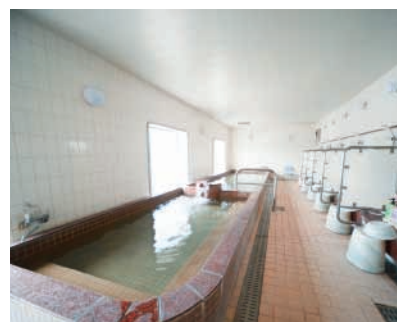
「ボン」と大きな音がエントランスホールに響き渡ると、いよいよ船出。この日は井端事務長によりドラが鳴らされた。昔懐かしきドラの音で旅立つあたりが、船旅らしくていい。

出航～!



## お風呂

窓から海を眺めながらの入浴は爽快。「さつま」「きりしま」とも6階に位置する大浴場は、出航してすぐに利用できる。人によっては、まず一風呂浴びて、それから浴衣姿でデッキに出ることもあるという。大浴場は日によって異なるが18時～21時まで利用できるので何度もお風呂を堪能する人も…。



九州の山並みが近づいてきたら、いよいよ志布志港だ。この町は古くから港湾都市として盛え、鹿児島島の西の玄関の役割を果たしてきた。フェリーは定刻通りに8時55分に到着した。17時55分に南港を出て、約15時間船内で過ごした。こう書くとき長いが、うな気がするが、身体が休まり、時間がゆっくり流れ行く様を体感した。普段着で乗船できる贅沢さ、カジュアルクルーズとはよく言ったものである。

(文/ジャーナリスト・曾我和弘)